ガンガゼ属（*Diadema*）３種の分布について

°張 成年・玉置泰司・小西光一・馬久地みゆき（水研セ中央水研）・黒木洋明・丹羽健太郎・鈴木重則・安藤大祐（水研セ増養殖研）・清本節夫（水研セ西海水研）・倉島　彰・石川達也（三重大学）・高木基裕（愛媛大南水研セ）・広瀬慎美子・清本正人（お茶大）・野原健司（東海大海洋）

【目的】日本中部以南の沿岸にはガンガゼ（*Diadema setosum*）とアオスジガンガゼ（*D. savignyi*）の他に、アオスジガンガゼと誤査定されてきた第３の種が存在する。この種はIkeda (1939)が *D. clarki* として新種記載したものの、Mortensen (1940)によってガンガゼのシノニムとされたものである。我々は本種の再記載を行っているところであり、和名を「アラサキガンガゼ」とした。ここでは、日本周辺におけるこれら３種の分布について調査を行った結果を報告する。

【方法】2004 年から 2015 年の間に調査を行った場所は、本州（東京湾・相模湾）～九州沿岸（九州北西の島嶼部含む）では荒崎（神奈川）から開門（鹿児島）までの 11 か所、太平洋島嶼部の式根島・八丈島・小笠原父島（東京）、種子島・屋久島・奄美大島（鹿児島）、沖縄島・石垣島（沖縄）で 9 か所及び外国ではバリ島（インドネシア）とマラカル島（パラオ）である。種の判別はChow *et al.* (2014)に従い、水中での撮影画像及び一部はDNA 解析によって行った。

【結果と考察】調査した全ての地域においてはガンガゼが普通に見られ優占種であった。アラサキガンガゼは比較的狭い緯度帯に分布し、荒崎から開門まで、太平洋島嶼部では式根島と八丈島で観察された。アオスジガンガゼは本州の串本（和歌山）と四国の内泊（愛媛）のみでわずかに観察された他、島嶼部では八丈島、種子島、屋久島、奄美大島、沖縄島、石垣島、バリ島で見られた。串本、内泊、八丈島では3 種が混在していた。各種の分布は低水温耐性の違いと関連していると考えられた。

*Chow *et al.* (2014): PLOS ONE 9: e102376